

第二期まち・ひと・しごと創生総合戦略実績報告書(令和6年度)【概要】

【基本目標1 まちの魅力を向上させ、新たなひとの流れをつくる】

1 数値目標

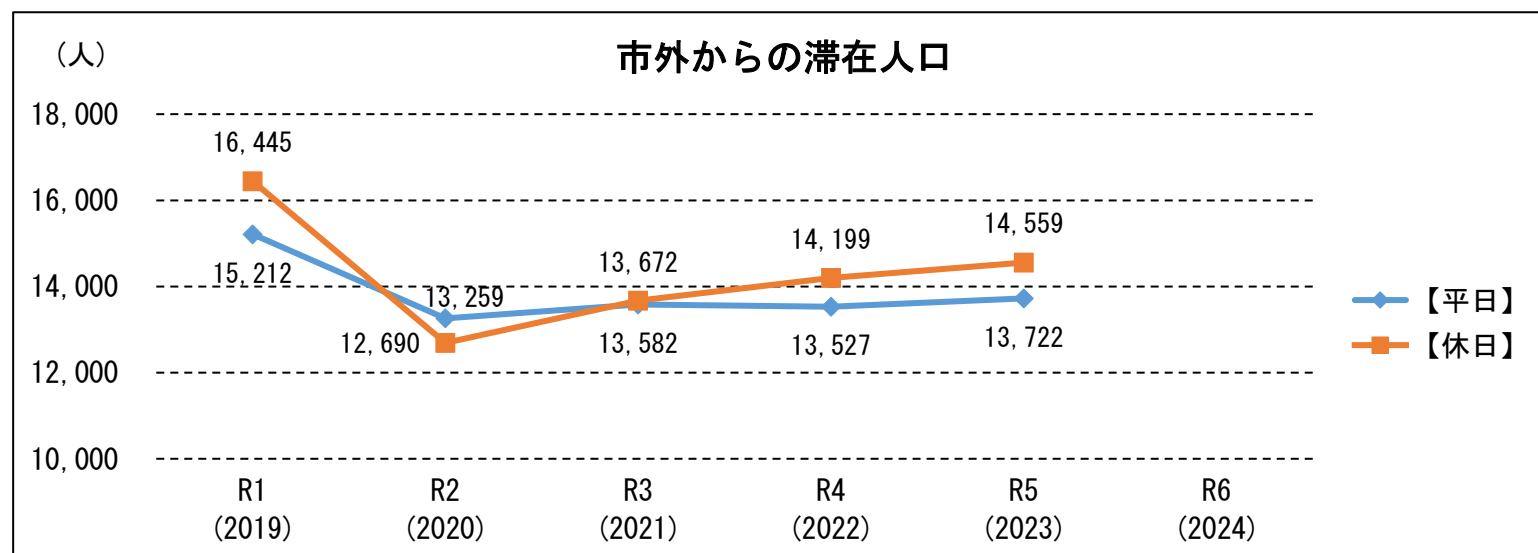
指標	現況値	R6	目標値 (R7)	評価
市外からの平日の滞在人口	16,660 人	— (*)	17,493 人	—
市外からの休日の滞在人口	16,951 人	— (*)	17,799 人	—

【指標の評価について】

- ◎：目標値達成（目標値以上）
- ：現況値超目標値未満
- △：現況値以下
- ：数値が判明していない等

※ 現況値：平成30年度

(*) 内閣府が提供する地域経済分析システム「RESAS」の全面改修により同様のデータが収集できなくなったため、数値は「—」としている。



2 具体的施策（7 施策 25 事業）

施策	評価					
	重要業績指標 (K P I)	主要要因 (C S F)				
		◎	○	△	—	計
戦略的な情報発信	○	1	2	1	0	4
創業を希望している市民への支援	○	0	0	2	0	2
産業の振興と雇用の促進	△	3	0	2	0	5
時代のニーズに対応する農業の創造	○	0	2	2	0	4
個性豊かな観光施策の推進	△	2	2	3	0	7
利便性の高い公共交通網の形成	○	1	0	0	0	1
にぎわいと活力ある魅力的なみち・まちづくり	◎	1	1	0	0	2
合 計	—	8	7	10	0	25

3 総論

【総括】

- 交流人口の増加の視点から施策を展開している。
- 数値目標に掲げる「滞在人口」については、内閣府が提供する地域経済分析システム「RESAS」の全面的な改修により同様のデータが収集できなくなった。また、代替となるデータの収集方法について、内閣府に確認したが、同様の数値を収集することはできないとのことであったため、数値は「―」としている。
- 現況値と比較すると、半数以上の事業が現況値を上回っている。

【施策別】

- 「戦略的な情報発信」については、情報発信方法の工夫等により、現況値を上回った事業が多い。
- 「創業を希望している市民への支援」については、イベント開催回数の減少等により、全ての事業で現況値を下回った。
- 「産業の振興と雇用の促進」については、半数以上の事業が目標値を達成している。
- 「時代のニーズに対応する農業の創造」については、現況値を上回った事業は2事業となった。
- 「個性豊かな観光施策の推進」については、かたくりの湯の一時閉館により、K P Iの実績値が現況値を下回っている。
- 「利便性の高い公共交通網の形成」については、K P Iの実績値が現況値を上回り、昨年度の実績値を上回った。
- 「にぎわいと活力ある魅力的なみち・まちづくり」については、全ての事業で現況値を上回っている。

4 外部有識者（まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会）からの意見

- 数値目標等で調査未実施の項目がある。各種計画の策定時（５年に１度）に調査を行うとのことだが、間の期間については、目標達成に向けた進捗管理をしっかりと行っていく必要がある。
- 外国人観光客を増加させるため、市ホームページの観光関連ページを充実させてはどうか。
- 総合的なまちづくりの視点から捉え、空き店舗の活用も含め、若い世代がチャレンジする機会を増やし、地域の活性化につなげてほしい。
- 空き店舗の活用については、創業支援と後継者の育成、また、まちづくりを担う仲間の育成といった様々な視点をもって事業を展開してほしい。
- 地域ブランド認証事業について、広報活動を継続するとともに、認証商品をふるさと納税の返礼品として活用するなど、積極的に活用する機運を高めていくことが大切である。
- 企業誘致制度について、地元の雇用につなげるためにも、引き続き、制度のＰＲを行ってほしい。
- ６次産業化について、他市の例も参考にしながら、地域資源を生かす方法を探っていただきたい。
- 若者の新規就農について、農業を通じた多世代交流や連携の事例もあるため、今後も広げて行ってほしい。
- 市内公共交通を周知できる良い機会であるため、子どもと共に取り組む事業を積極的に発信していただきたい。

【基本目標 2 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる】

1 数値目標

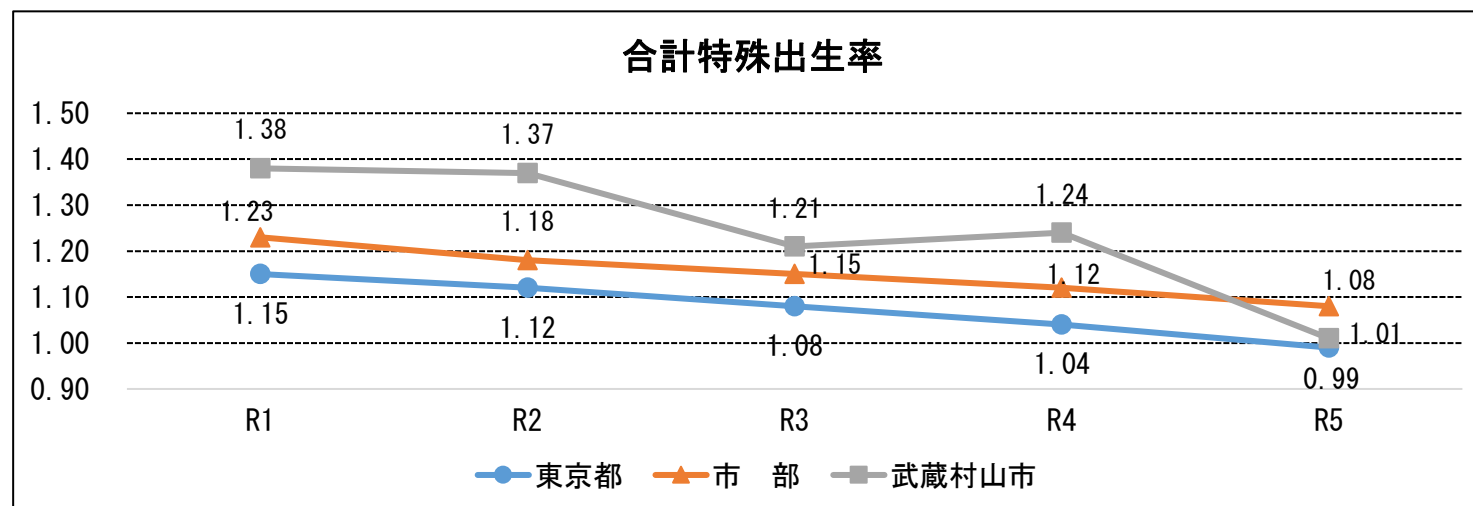
指標	現況値	R6	目標値 (R7)	評価
合計特殊出生率	1.55	1.01 (*)	1.60	△
「武蔵村山市は安心して子どもを産み育てることができるまちだと思う」人の割合	72.1%	調査未実施	80%以上	—

【指標の評価について】

- ◎：目標値達成（目標値以上）
- ：現況値超目標値未満
- △：現況値以下
- ：数値が判明していない等

※ 現況値：平成 30 年度

(*) 合計特殊出生率については、例年、冬頃、区市町村別の数値が公表される。
そのため、実績値は前年の数値である。



2 具体的施策（4施策20事業）

施策	評価					
	重要業績指標 (K P I)	主要要因 (C S F)				
		◎	○	△	—	計
結婚・妊娠・出産・子育てへの支援	○	5	1	2	0	8
子育てしやすいまちづくり	—	2	0	2	2	6
子どもの知力・体力の向上	◎	0	0	4	0	4
教育環境の整備	△	0	0	2	0	2
合 計	—	7	1	10	2	20

3 総論

【総括】

- 年少人口及び将来的な生産年齢人口の増加を図る視点から施策を展開している。
- 数値目標に掲げる「合計特殊出生率」については、現況値と比較すると減少しており、49 区市で 30 番目の数値である。
(令和 5 年度実績)
- 数値目標に掲げる「武蔵村山市は安心して子どもを産み育てることができるまちだと思ふ」については、K P I が計画策定時のアンケート調査項目であり、令和 6 年度はアンケート調査を実施していないため、数値が不明である。
- 現況値と比較すると、半数の事業が現況値を下回っている。

【施策別】

- 「結婚・妊娠・出産・子育てへの支援」については、多様な保育サービスを継続し、半数以上の事業が目標値を達成している。
- 「子育てしやすいまちづくり」については、地域住民等の協力を得て、2 事業が目標値を達成した。一方で、現況値を下回った事業が 2 事業であった。
- 「子どもの知力・体力の向上」については、K P I が目標値を達成した。
ただし、その他事業については、全ての事業において現況値を下回った。
- 「教育環境の整備」については、全ての事業において現況値を下回った。

4 外部有識者（まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会）からの意見

- 市役所男性職員の育児休業取得率の向上について、素晴らしい実績である。一方で、女性職員の育児休業取得率は100%であることから、「立場による取得のしにくさ」以外にも男性職員の育児休業取得率が100%に至らない要因があると考えするため、要因を分析し、推進してほしい。
- 絵本読み聞かせ事業は、子どもたちにとって大切な事業であるため、興味を持てるような演出を行い、多くの方に参加してもらえるようにしていただきたい。また、子どもたちが本に親しめるよう、図書館が小学校やPTAとも何らかの連携を図れると良い。
- 放課後子供教室について、対応が難しい子どもの問題は専門職につなぐ仕組みも必要になってくると考えるため、検討していただきたい。
- 英語検定受験に係る支援について、対象を中学校第3学年だけでなく、中学校第2学年にも拡大できると良い。

【基本目標3 誰もが安心して暮らし続けられる地域をつくる】

1 数値目標

指標	現況値	R6	目標値 (R7)	評価
これからも本市に住み続けたいと思う人の割合	31.1%	34.1%	36.1%	○
20歳代の転出者割合	12.6%	12.9%	11.6%以下	△

【指標の評価について】

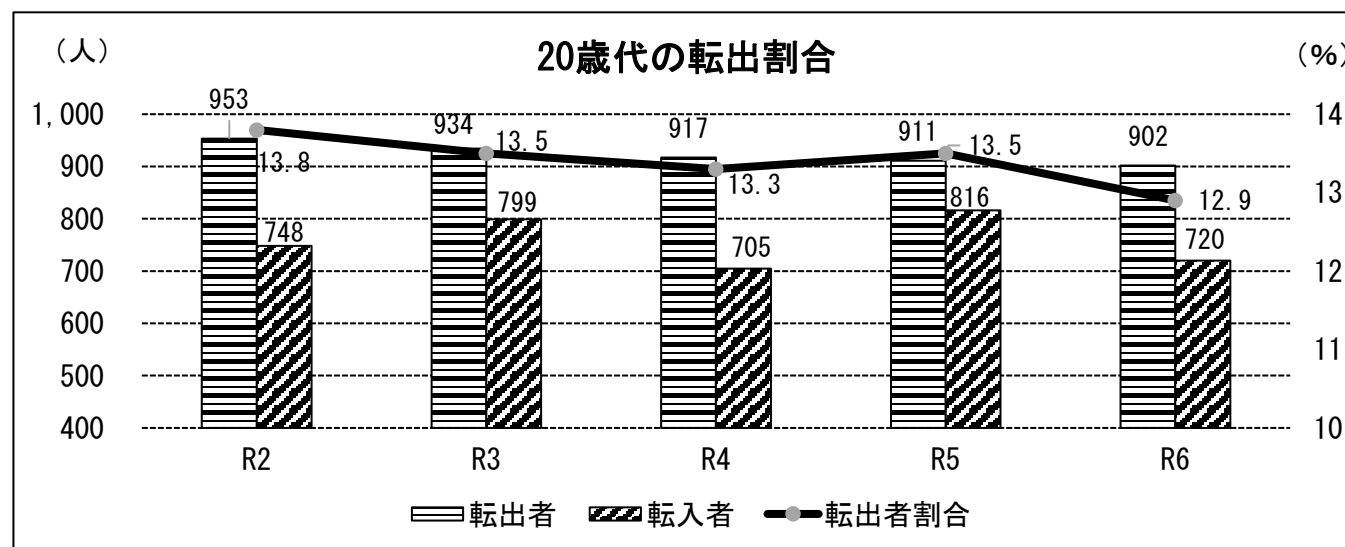
◎：目標値達成（目標値以上）

○：現況値超目標値未満

△：現況値以下

—：数値が判明していない等

※ 現況値：平成30年度



2 具体的施策（3施策14事業）

施策	評価					
	重要業績指標 (K P I)	主要要因（C S F）				
		◎	○	△	—	計
交通利便性や買い物環境の向上に向けたまちづくり	△	1	0	1	0	2
安心して暮らせるまちづくり	◎	1	1	0	0	2
健康でいきいきと暮らせるまちづくり	—	5	2	3	0	10
合 計	—	7	3	4	0	14

3 総論

【総括】

- 「住み続けたい」と思うまちづくりを進める視点から施策を展開している。
- 数値目標に掲げる「これからも本市に住み続けたいと思う人の割合」については、現況値を上回った。
- 数値目標に掲げる「20 歳代の転出者割合」については、過去 5 年間で最も低く抑えられたが、依然として転出超過の状態が続いている。
- 半数の事業が目標値を達成している。また、現況値と比較すると、半数以上の事業が現況値を上回っている。

【施策別】

- 「交通利便性や買い物環境の向上に向けたまちづくり」については、K P I が現況値を下回った。
- 「安心して暮らせるまちづくり」については、防災対策を計画的に行ったため、K P I の目標値を達成するとともに、全ての事業で現況値を上回った。
- 「健康でいきいきと暮らせるまちづくり」については、K P I が計画策定時のアンケート調査項目であり、令和 6 年度はアンケート調査を実施していないため、数値が不明である。
なお、半数以上の事業において、現況値を上回っている。

4 外部有識者（まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会）からの意見

- 健康教室について、参加者の年齢制限がないのであれば、仕事帰りの成人を対象としたものや親子で学べるようなプログラムを設定すると参加者が増えるのではないかと考える。また、参加しやすいよう開催場所の検討もしていただきたい。
- お互いさまサロンについて、関係機関や各課とも連携を図ることで、多世代交流等の新しい取組につながると良い。
- シルバー人材センターについて、事務職の仕事が充実すれば登録者数も増えると考え。また、その周知も図っていただけると、より多くのアクティブシニアの市民が活躍できる場になると考える。
- 観光関係のパンフレット等を各種イベントや大型ショッピングモールなど、人が集まるところに置くと良い。